

# 千歳市市民協働推進会議議事録

会議名	市民協働推進会議（第9期 第14回・書面）
日時	令和7年1月28日（火）～令和7年2月25日（火）
出席者	委員11人

議題	<p>(1) 協働事業実績評価</p> <p>【事業名】市民協働活性化事業(市提案型)</p> <p>【事業名】「千歳市農業の今を知る」(市提案型)</p> <p>【事業名】移住者交流コミュニティ POT (市提案型)</p> <p>【事業名】千歳市民ミュージカル開催事業(市民提案型)</p> <p>【事業名】チトセコ学ばさるプロジェクト(市民提案型)</p>
決定事項	<p>(1) 協働事業実績評価</p> <p>【事業名】市民協働活性化事業 次のとおり評価を実施した。 サービス 3.5 事業効果 3.8 得意分野 4.0 ノウハウ 4.6 きっかけ 3.8</p> <p>【事業名】千歳市農業プロモーション事業「千歳市農業の今を知る」 次のとおり評価を実施した。 サービス 3.7 事業効果 4.7 得意分野 4.7 ノウハウ 4.5 きっかけ 4.2</p> <p>【事業名】移住定住促進事業 移住者交流コミュニティ POT 次のとおり評価を実施した。 サービス 2.5 事業効果 3.1 得意分野 3.5 ノウハウ 3.8 きっかけ 3.8</p> <p>【事業名】千歳市民ミュージカル開催事業 次のとおり評価を実施した。 サービス 4.7 事業効果 4.8 得意分野 4.8 ノウハウ 4.8 きっかけ 4.7</p> <p>【事業名】千歳市ゼロカーボンシティ チトセコ学ばさるプロジェクト 次のとおり評価を実施した。 サービス 4.6 事業効果 4.8 得意分野 4.6 ノウハウ 4.6 きっかけ 4.7</p>

◎委員 ■実施団体 □実施担当課 ○事務局 ●意見・感想

	<p>(1) 協働事業実績評価</p> <p>【事業名】市民協働活性化事業</p> <p>&lt;質疑応答&gt;</p> <p>なし</p> <p>&lt;総評&gt;</p> <p>参加者を募るのに苦慮したとのことなので、ターゲットの明確化とそれに合わせた周知方法をとることが大切かと思われる。また、講座を受けることで「この技術が身について、技術を活用してこんなことができる」という、「技術が身に着いた上で自分がどう変わるか」というビジョンを具体的に提示して周知するとより良かったように思う。開催後のアンケートを見ると参加者満足度が高いだけにもったいない。事業で作成した市民協働ハンドブックは市民協働の推進に今後も活用できる成果となり良かった。</p>
--	--

【事業名】千歳市農業プロモーション事業「千歳市農業の今を知る」

<質疑応答>

なし

<総評>

農家の方が伝えたいメッセージを事前確認して適切な長さに落とし込んでいることは素晴らしい。ただ、視聴者あつての動画なので、「視聴者の聞きたいこと」が盛り込めていればさらに良くなった可能性がある。コメントから見るに視聴者の需要は動画に収められているようであったが、実際に質問を受け付けて視聴者の声を取り入れる機会を作る工夫を凝らしたり、動画ごとの再生数の差の理由の分析があっても良かったように思う。

【事業名】移住定住促進事業 移住者交流コミュニティ POT

<質疑応答>

なし

<総評>

予定していた移住者交流については、現在も移住を検討されている方などから問い合わせがあることから一定の需要があるものと考えられるため、参加者が集まらなかったことに関しては周知不足だと推測され、担当の代替がいなかったなどの事態は団体内及び市との間での意思疎通ができていれば実施に繋がる余地があったように思う。事業は移住相談と移住相談会のみで留まったが、既存事業の充実に繋がった。

【事業名】千歳市民ミュージカル開催事業

<質疑応答>

なし

<総評>

2年目で動員数を100名伸ばして1,000名近く動員し、アンケートを観客の半数以上から回収できたとのことだが、回答内容がどういったものであったか気になる。千歳の歴史に興味を抱いた人はどれくらいいたのか、芸術がどう地域に寄与しそうであるか、ミュージカルによって地域に愛着が湧いたという人がいるのか、そういった点を分析し、今後の活動につなげていただきたい。また、現在も空港100年事業の補助を受けて事業を継続しているが、市の補助が出なくなった後の事業継続についても検討を進めてもらいたい。

【事業名】千歳市ゼロカーボンシティ チトセコ学ばさるプロジェクト

<質疑応答>

なし

<総評>

出前授業の回数は多く、イベント出展なども行い、メディアにも掲載されるなど、多くの市民に活動を知らしめたことと思う。実績報告の中で今後連携したい団体についても挙げているなど、継続的な活動を目指していることも評価できる。ぜひ今後も活動を続け、子供たちにゼロカーボンの考え方を定着させていってもらいたい。